

安全作業手順書【路面切削機】



見積もり基準をした危険性の評価			
重大性(B)	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
可能性(A)			
○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○○ (極めて小さい)	○△ (かなり小さい)	○× (中程度)
△ たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)
× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし (後者を要)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路（豊田IC～春日井IC） 名古屋第二環状自動車道 （名古屋IC～飛島北IC,有松IC～上社JCT）
機器工具 ・車両	路面付切削機	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、 ゴム手袋、軍手、安全靴

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント			リスクの見積り			安全対策（危険度2以下へ）			リスクの再見積り																
			（～なので～になる）			(A)	(B)	リスク	（私達はどうする）			(A)	(B)	リスク														
準備工	作業確認	作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割（運転手、助手）を決める 作業場所及び車線を確認する 交通規制状況を確認する	作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1	免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両ｽﾀｯｶｰを確認する	○	△	2	/	/	/	/	/	/			
	作業前点検	使用前の建設機械点検を行う	①建設機械ごとの点検表に則り ②検査証の備え付け、使用の制限、設計基準の負荷条件、 運転資格を確認して ③メーカー取扱書を読み操作方法特に安全操作の取り扱いを熟知	点検不足により、作業中による故障する	○	×	3	作業前に必ず点検を行う	○	○	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/					
	出発	基地等、敷地内から車道へと進入する 目的地へ回送する	周囲の安全を補助員と共にしっかり確認して 車両回送手順書に従い	確認不足により一般車両及び人と接触する	△	×	4	余裕を持って慎重に車道へ流出する	○	△	2	車両回送手順書に従う																
準備工	照度の確認	照明設備を十分にし	視界不良による接触、品質低下	○	×	3	作業前に視界の確認する	○	○	1	作業場所の上空、周囲に支障物が無いか確認する	周囲の状況に気をつけながら	架空線に気づかず、接触してしまう	△	△	3	監視員を必ず配置する	○	○	1	床版に損傷を与えてしまう	△	△	3	舗装厚の確認をする	○	○	1
	切削作業	緊急非常停止装置の確認 死角を確認 切削機と積込みの配置を確認	切削作業中に手元の作業員に気を付け 周囲の状況に気を付けながら 配置位置を確認して	回転ドラムに足を巻き込まれる	△	×	4	緊急非常停止装置の設置	○	△		2	死角にいる作業員との接触	△	×	4	①切削機が作業している時は他の作業員はオベの死角に入らないようにする ②監視員を配置し監視員の指示に従う	○	△	2	切削機とバックホウとの接触	△	×	4	切削機とバックホウを同時に使用しない	○	○	1
	後片付け	キャタピラ等付着した合材、土砂を除去する	周囲の状況に気をつけながら	/	/	/	/	/	/	/		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
仕上げ	養生材や道具を片付ける	車線側、他の作業員等十分周囲に注意して	片付け作業や操作作業が重複し 作業員同士との接触を起こす	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、 全体の動きを指示しながら片付けを行う	○	○	1	場内状況及び清掃状況を確認する	清掃道具で場内清掃を行う	掃き掃除やブロワー使用の際、走行車に気づかず 清掃物が飛散し、接触する	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、 警笛等を用いて合図をしながら清掃する	○	○	1	/	/	/	/	/			
	現場離脱		25.車両回送手順書に則る																									
	特記	1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。																									